

Heimat

ハイマート

ぐんま日独協会 会報

2021年6月28日

58号

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

電話:027-288-4297

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ:jdg-gunma.jp/



1. 会長のことば	2
2. 総会議案書投票結果報告	3
3. アンケート調査結果の報告	3
4. アフターコロナのドイツフェスティバル～森林勉強会へのお誘い	4
5. 津軽三味線ドイツへ行く 思い出 2002 年	6
6. 日本百名山-独訳(連載 8) ～ 那須岳	8
7. Treffpunkt(トレフプンクト) 出会いの場	12
8. デザイナー修行奮闘記(連載17)	14
9. Mein Leben in Tübingen 留学体験記(1)	16
10. ドイツ語ニュースを聞く会に参加して	19
11. ドイツ人のお名前	20
12. ぶらり ぐんま ドイツ語で!	22
13. 編集後記	22
14. お知らせあれこれ	23

1. 会長のことば

『ドイツフェスティバル in ぐんま』発足の経緯とその意義

ぐんま日独協会 会長 鈴木克彬

今般会員の皆さんにご協力いただいたアンケート結果を見させていただくと、ぐんま日独協会との触れ合いには、ドイツフェスティバルが大きく貢献していることが判りました。そこで改めてドイツフェスティバルの発足の経緯とその意義について説明させていただきます。

2004年（平成16年）4月、神戸市で開催された全国日独協会連合会総会に、当時ぐんま日独協会の事務局長であった鈴木は、故平形義人前会長とともに出席しました。

その席上、当時の駐日ドイツ大使のシュミーゲロー閣下から、「来年2005年（平成17年）は、日本におけるドイツ年という記念すべき年となる。そのため大都市だけでなく地方都市等、全国各地でイベント等の開催を検討して欲しい」とのご要望が有りました。そして「助成金等を含め、あらゆる援助を惜しまない」とも付け加えられました。

当時群馬県環境アドバイザー連絡協議会の代表をしていた私は、その席上で、「日本ではドイツは環境先進国としての知名度が高い。ドイツ側で環境先進国として、各種事例の紹介パネル（日本語版）を作成し提供していただけないか」と発言しました。ドイツ側からは即座に「そのアイデアは素晴らしい。早速ドイツ本国と相談し実現化を図りたい」との回答を得ました。その後、ドイツ大使館でテーマ等について数回の打ち合わせをした後、2005年にドイツ制作の日本語版環境パネル25枚が作成され、群馬県庁で開催された1回目のドイツフェスティバル会場で初展示されました。

・・注記・・その後、当パネルは香川県をはじめ、全国各地で巡回展示。

一方県民の方々にとって、もっとも関心が高いと思われるドイツ観光については、ドイツ観光局から、78枚の観光地パネルの借用が可能となり、群馬県庁の第1回目のフェスティバル会場で展示することも出来ました。

催し物会場は、群馬県側の窓口である群馬県国際課に対し、大使館からのご要望等を縷々説明し、1階県庁ホール全面使用のご許可をいただきました。その後産業経済部等のご支援もいただき、県内関係者の出店・ご協力も得て隔年で実施、過去8回の開催に至っています。

開催のポリシーとしては、今後とも、ドイツのお国柄・国民性等を考え、安易に走らず、パネル展の実施、各種ドイツの紹介等、相互交流・相互学習を柱に、こだわりを持って特徴あるドイツフェスティバルを実施していきたいと考えています。

会員皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。



【表紙の写真：赤城大沼湖畔道のミズナラの森。瓜生郷子会員撮影】

2. 総会議案書投票結果報告

事務局

コロナ禍により今年度も昨年同様、対面の総会を開くことができず、総会議案書の書面評決となりました。その結果、委任票を含めて全議案に対して満票で議案どおり承認されました。みなさまのご協力に対して感謝申し上げます。来年こそは対面での総会が開かれることを願っています。

3. アンケート調査結果の報告

アンケート調査委員会

ぐんま日独協会は、1988年3月18日付上毛新聞に掲載された「ドイツ好き集まれ」という呼びかけで創立され、現在はドイツへの関心という共通項を軸に140名近くの会員が参加しています。創立期のメンバーから、最近入会された方まで、年齢も背景も様々です。そんな会員ひとりひとりにとってより参加しがいのある場とするためにはどうすればよいか執行理事会で協議を重ねた結果、みなさまから広くご意見ご要望を伺うことにいたしました。

その結果70名からアンケート回答をいただきました。アンケート調査委員会で詳細分析を行い、このハイマート送付と同じタイミングで結果の詳細報告を会員宛てに発送します。ここではその概要のみを報告します。

第1番目は、ドイツフェスティバルへの会員の関心の高さや影響力の大きさがはっきりしたことです。その中でも特にパネル展の重要性が浮き彫りになりました。まさにこの点がぐんま日独協会が開催するフェスティバルの顕著な特長の一つでもあります。

第2番目は、活動の中心である「ドイツサロン」への関心が高いこともはっきりしました。回答者の81%が参加経験者です。コロナ禍ではオンラインでの開催を余儀なくされていますが、オンラインでも「参加している」「参加したい」との回答が対面での開催と同数近くを保っています。オンライン参加の講習会を何度か開き、技術的障害を取り除く努力も行ってきましたが、まだ「関心はあるが技術的に分らず参加できない」との回答が数件ありました。その方々へのお手伝いを今後も続けていく必要があることもわかりました。

第3番目は、年齢分布です。60歳代以降が72%を占めています。将来に向けて若手の掘り起こしが必要です。「若手」とされる40歳代までの比率は19%です。ただ、その方々の多くが同年代の参加者が多いイベントへの参加を希望しています。その希望に即した企画を立ち上げていく必要があることがわかりました。

ぐんま日独協会を、多くの会員にとってよりよいものにするために、今回多くの会員の方々が協力してくれたアンケート内容を結果に結び付けていけるよう、アンケート調査委員会および執行理事会にて具体策を策定していきます。ご協力ありがとうございました。

4. アフターコロナのドイツフェスティバル

～ 森林勉強会へのお誘い～

宮原 喜利雄 会員

Covid-19 パンデミックに流されて、今年に予定されていた恒例のドイツフェスティバルが中止になりましたが、来年を期待して目下準備中です。目玉のパネル展示をどうするか、鈴木会長の発案で群馬県の森林を荒廃から守る為にドイツの先進的な森林管理方法をパネル展示で紹介しようという事になりました。

このテーマは気候変動絡みの豪雨災害対策や環境問題など更に水資源や漁業資源保全にも関係する膨大な地球環境問題まで含みます。更に既得情報によると、ドイツの林業従事者は自動車産業従事者のおよそ2倍の130万人にもおよび、年間売り上げ金額はおよそ1.2兆円(GNP 比5%)で木材自給率100%である。対する日本は自給率20%、木材の売上金額は受ける補助金額を少し上回る程度です。この大きな差は何だろう?・・・一緒に学びましょう!

我々は素人集団ゆえ、先ずは現状を知る為の勉強会をスタートさせて会員諸氏の参加を募って一緒に勉強することにしました。21枚ほどのパネルに纏めるには高度な専門知識と熱意が求められます。幸いにも会員の中には多方面での活躍経験をお持ちで科学的知見や経験などで協力していただける方々がいらっしゃる筈なので、ぜひとも次回のフェスティバルに向けた協働に参加して頂きたいと願っています。

はじめに群馬県環境森林部森林局のご協力を得て群馬県の実情を知る為の講演会をオンラインで7月25日(日)の14:00～15:30を計画しています。講師は多野東部森林組合の浦部参事です。

また並行して、毎月隔週で自前のオンライン勉強会を開催します。会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。今は執行役員を中心に、勉強会や講演会の為の資料や情報集めに奔走していますが、新しい情報に接するたびに我が身の不明に愕然としています。

ドイツ文化由来の長期的な視点から創られた森林管理に対比して我が国の目先対応型政策が今日の森林荒廃を招いたようにも思えて、両国の根底に在る文化的差異を感じています。

下記に参考資料をご紹介しますので、どうぞお役立てください。

◎「ドイツ元森林官との意見交換会」の講演録—ドイツからみた日本の森林・林業の課題

<https://www.nochuri.co.jp/publication/soken/contents/2932.html>

◎『ドイツに勝てる世界最強の「林業」を育てるには?』グロービス講演

<https://www.youtube.com/watch?v=XZ5UfBjm-p4&t=1542s>

◎ドイツ林業 (ニュース番組特集;ドイツの林業のレポート)

<https://www.youtube.com/watch?v=wMn9vOcu4Ng>

◎林野庁ホームページ:

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikku/hakusyo/r1hakusyo_h/all/tokusyu4_2.html#jt_10



〈バヴァリア（バイエルン）の森〉
夏は林業に従事して、秋～春の間は牧畜業に従事するという兼業が多い



〈風光明媚な山地〉
林業だけではないドイツの森林は人々の憩いの場として心の故郷でもある



〈秋の溪流〉
日本の山懐を思わせるドイツの南部の森



〈自然更新の混合林化を待つドイツ式皆伐の跡〉
効率的な皆伐方式は、SDGs の面から今では否定されている



〈オーストリアの森林風景(混合林)〉
日本の山里を彷彿とさせる風景だが、SDGs 思想が既に生かされた100年林業が根づいている



〈ガルミッシュ・パルテンキルヘン〉
群馬の森林環境にも似通った南ドイツの山林

オンライン講演会の予定

- ☆ 7月25日(日曜日) 14:00～15:30 群馬県の森林問題(仮題)
講師：多野東部森林組合の浦部参事
- ☆ 8月または9月『ドイツから見た日本の森林・林業の課題』(仮題)
講師：ドイツ在住の森林ジャーナリスト 池田憲昭氏

5. 津軽三味線ドイツへ行く 思い出 2002 年

對馬良一 会員

「戦争だ!「戦争だ!」の声に町中の人たちは大騒ぎ。テレビの前の人ばかりの中から画面を見ると、飛行機がビルに突っ込む映像でした。僕は驚いて会場に引き返したが会場ではまだなにも知らずに休んでいた。橋本孝とちぎ日独協会長にテレビで見たことを話していた時、会場の関係者が飛び込んできた。そこで初めてテロ事件であることを知らされた。その後、ミュンヘンの中根領事や市長さんとも電話で話し合った。フュッセンは国際都市であるので最終的には演奏会は中止にしまった。その後の演奏予定だったパッサウ、レーゲンスブルグも中止が決まり、南ドイツの3会場が中止となった。

その晩、市長が私達を食事に招待してくれた。ヴェンゲルト市長は臨時議会を招集して中止を決めた、と経過を説明された。市長は私が群馬県から来たと知り、姉妹都市の沼田市から頂いたネクタイとバッチを付けて出席された。私のためにこの様にして頂いたことに感謝していた。当時の沼田市長は後のぐんま日独協会の副会長の西田治司さんでした。また、ヴェンゲルト市長はロマンチック街道の事も話され、草津の市川町長の事も懐かしく話された。翌日ロマンチック街道の最終地点を案内してくれた。街の中心部から少し離れた大きな教会と修道院のそばに“Ende der romantischen Straße”と書かれてあった。また、そばにフュッセン(Füssen)市の紋章を表す足の形の紋章があった。これらを見てフュッセンを離れた。

ミュンヘンは必ず演奏会は実施するとの事となり、会場は喪に服す意味もあるので中根領事は最初の曲は哀愁をこめた曲にしてほしいとの要望でした。石川師匠との相談で曲の出だしが静かな「あいや節」に決めた。

当日演奏者2名、橋本会長と私の4人が舞台から、満員の観衆とニューヨークテロの犠牲者に黙祷をして演奏に入った。

演奏終了には、多くの観客から拍手が鳴りやまなかった。領事も演奏会をやって良かったと演奏者の手を握ってくれた。翌日の新聞に大きく黙祷の様子が報道された。

ドイツ各地の演奏会の最終地はレムゴーで、エンゲルベルト・ケンペルの生誕 350 年の記念行事でした。会場はレムゴーの技術専門学校の講堂でした。津軽三味線など聴くのが初めての人ばかりで不安でした。この会場にリンテルンでお世話になった、ハッセンブフルーク夫妻が駆けつけてくれた。

リンテルンではヴォルフガング・ハッセンブフルーク家に入った時に驚かされたことが沢山あった。壁いっぱい飾られた写真と絵画の数々、分厚い書物。この人は世界的にも有名な、グリム童話で知られるグリム兄弟の子孫でした。ヤーコブとヴィルヘルムのグリム兄弟には9人の兄妹がいたが幼くして3人が亡くなった。ただ一人の女の子シャロッテ・アマーリエがヴォルフガング・ハッセンブフルーク氏の祖祖母である。ハッセンブフルーク夫妻はグリム兄弟の事をいろいろ話してくれた。橋本会長は日本グリム協会の会長でもあるので真剣にメモを取っていたのが印象的でした。グリム家の紋章の入ったフォーク、ナイフ、テーブルクロス、そして紋章の入ったマイセンの食器、恐る恐る落とさないように使用させていただいた。食事とても美味かった。特にグリムの紋章のついたコーヒ茶碗でのコーヒの味は忘れられません。……ゲルダ夫人は別れ際にグリムの菓子と、「對馬さん、貴方に記念にこれをあげる」と紙片をさしだした。紙にはドイツ語でグリムの名と NO.94、95、96、97 などが見える。

それはグリム家に伝わる菓子の作り方を書いたメモでした。橋本会長は「對馬さん大変なものを戴いたね・・・と」今でもそのグリム菓子のレシピは私の宝物として大事に保存しています。



2002年の正月、一通の手紙がドイツから届いた。帰国後にクリスマスカードなどを送ったお礼の手紙でした。手紙には、「美しい日本のカレンダー有難うございます。先日は私どもの家までおいいただき、皆さんと楽しいひとときを過ごすことができ感謝いたします」とメッセージが添えてあった。その後、何年か賀状の交換も行われましたが、ご主人のヴォルフガング氏よりゲルダ夫人(写真)が他界されとの連絡があった。初めて会った私達を親切にもてなしていただき、やはりドイツ人は日本人の良き友人であると痛感した。合掌

このように今回の演奏旅行は津軽三味線だけでなく日独親善や日独文化、人的交流など大きな収穫があったと思っている。

おとぎ話の国のように美しい町フュッセンのノイシュヴァンシュタイン城とルートヴィヒ二世のミュージカル劇場、チェコとオーストリアの国境の街パッサウはドナウ川のほとりの静かな町、そしてドナウ河畔の美しい町レーゲンスブルク、世界遺産の鋳山の街ゴスラー、メルヘンの街ハーメルン、グリム兄弟博物館とヘラクレス像のあるカスケード(*多段式の滝)の町カッセル、赤紫色のエリカ大原野、リュネブルガー・ハイデのリュネブルク、東西ドイツ統一後ドイツの首都に咲いた世界の大都市ベルリン、ルール工業地帯の中心地エッセン、フォルクスワーゲンの街ヴォルフスブルグ、などドイツ国内北から南へ7000キロに及ぶ距離をフォルクスワーゲン社提供のワゴン車で事故もなく走破した。この車を女性ながら全行程を無事故運転されたビーレフェルト独日協会のゲザ・ノルエルト女史に心より感謝している。

演奏旅行終了後、数日間ドイツに滞在して、40年前下宿していた家の主人の墓参りや、スポーツ仲間だった少女、ベアブルが子供二人を連れて会いに来てくれた。限りなく美しい国ドイツに再会を約束して帰国したが、テレビなどでドイツの街並みが映像に出ると懐かしく思い出される。

ドイツは私の第二の故郷である。



6. 日本百名山 独訳 - 連載8

深田勝弥 会員

24 那須岳 (1917 米) 24 *Nasu-dake* (1917 Meter)

24-01

那須の歴史や伝説を書き出したら、この短い文章には入りきらぬだろう。それほど古くから広く知られた地名である。もちろんそれは那須野の方だが、その広々とした量を除外して那須岳は考えられない。那須岳はその裾野によって生きている。

Wenn ich über die Geschichte und Volkssage von *Nasu* schreiben wollte, reicht dieser kurze Text zu den sicher nicht aus. Der Name *Nasu* ist so lange in der Welt berühmt. Natürlich zeigt der Name auf das Feld *Nasu-no*. Doch enthält er auch den Berg *Nasudake*, mit der großen Masse. Deshalb lebt *Nasudake* mit seinem Fuß des Berges.

24-02

おそらく那須という名前を知らぬ人はないだろう。それはいろいろな話や文章から私たちの耳に入っている。日本には火山が多いが、関東から奥羽を縦断して北海道・樺太へ走る火山脈に、那須の名が冠せられるのををもって、これが代表的な火山であることが察しられる。

Wahrscheinlich wissen keine den Namen *Nasu* nicht. Wir erkennen mit dem Namen seine verschiedene Geschichte und Aufsätze. Japan hat zwar viele Vulkane, aber es kann vermuten, dass er vor allem repräsentativen und genannten Berg ist. Weil die Namen der Vulkane von der Region *Kanto*, durch *Oh-u*, bis *Hokkaidoh* und noch weiter Sachalin die Namen *Nasu haben*.

24-03

ナスの語源は分らない。寺田寅彦氏の随筆「火山の名について」によると、日本の火山、アソ、アサマ、ウス、(有珠岳)、ウンセン、エサン、(恵山)など、互いに似かよった名をもっている。これは南方語系の *Aso* (燃える)、*Asua* (煙る) などから来たのではない、そしてナスもその一変形ではないか、と説かれている。

Die Herkunft des Wortes *Nasu* ist noch unklar. Nach dem Essay von Herr Terada Torahiko „Über die Namen der Vulkane“ haben sie mit einander ähnliche Namen, zum Beispiel, *Aso*, *Asama*, *Usu*(der *Usu-dake*), *Unsen*, *Esan*,(der *Esan*) und so weiter. Weil sie vielleicht aus den südlich Worten *Aso* (brennen), *Asua* (rauchen) stammen. Und *Nasu* ist wohl auch ihre Variation.



24-04

しかし私たちに印象されているのは、ナスの発音よりも那須という文字によってであろう。すでに景行天皇の時代に那須国と呼ばれ、国造が置かれたと伝えられる。天武天皇四年（六八九）に没した^{なすのあたいいてい}那須直章堤のために、那須国造碑が建てられ、それが今でも現存し国宝に指定されている。文章を彫ったものでは日本最初の古碑だという。

Aber ich meine, was in uns eingedrückt ist, ist mehr seine Schrift als Aussprache *Nasu*. Nach einem alten Dokument, dass der schon *Nasu-land* genannt war, und in der Zeit des Kaisers *Keikoh* (in der Mythischer Zeit) hatte schon das Verwaltungsorgan aufgestellt. Das Denkmal wurde an den Landadel *Nasuno-atai-idei*, der zur Zeit des Kaisers *Ten-mu* (689) gestorben war, gebaut. Das ist noch jetzt als Nationalschatz übriggeblieben. Das sei, das älteste Denkmal aus Stein, wo die Schriften graviert ist.

24-05

誰でも知っているのは那須ノ与一であろう。この屋島の戦いの弓の名手は那須野の出身である。そのあたりでは年中鳥獣を追っていたから、騎射の術は発達していた。従って源頼朝がしばしばここで巻狩を催し、実朝に「もののふの矢並つくろふ小手の上に霞たばしる那須の篠原」の歌のあるのも不思議ではない。

Jedermann weiß wohl über *Nasuno Yoichi*, der Meister des Schießens bei der Schlacht in *Yashima* war. Er stammte auch aus *Nasu-no*. Da die Bewohner in der Gegend damals den Tieren und Vögeln nachgelaufen waren, waren sie sicher bei der Jagd stark. Daher ist es nicht zweifelhaft, die Jagd von Shogun *Minamoto Yoritomo* oft stattgefunden war und sein Sohn *Sanetomo* ein Waka Vers geschrieben hatte.

Auf die Armschiene

Des Streiters, der die Pfeilen

Im Körbchen ordnet,

sprühen die Hagelschloßen

im Bambusfeld in *Nasu*.

21-06

更に那須を一般化したのは殺生石の伝説かもしれない。西域の美女褒姒が日本に渡来して玉藻ノ前と呼ばれ、時のミカドの寵を一身に集めたが、実は白面金毛九尾の狐であった。その本体が暴露されたので、那須野へ飛んでその怨念が殺生石に化したのだという。この伝説は、謡曲に琴曲に、芝居に取り上げられて、文学的な材料となった。「奥の細道」の芭蕉はわざわざその殺生石を見に行って、

野を横に馬引き向けよほととぎす

の句を残している。

Was den Namen *Nasu* in der Welt verbreitete hat, kann die Volkssage titelte *Sesshou-iwa* (der Mörder Stein). Der Sage nach; „Eine schöne Araberin namens *Hohji* sei von China in Japan gekommen. Dort wird sie vom damaligen Kaiser speziell beliebt ist und *Tamamo-no-mae*, genannt. Doch sie sei eigentlich der Fuchs mit weißem Gesicht, goldenem Haar und neun Schwänzen. Danach wird sie das wahre Gesicht entlarvt. Daher floh sie ins *Nasuno*. Und ihrer Geist habe sich den Mörder Stein verwandelt“. Diese Sage ist noch jetzt als literarische Therme in das Harfenspiel und *Noh*-spiel aufgenommen. *Matsuo Bashoh*, der Autor „*Okuno-Hosomichi* (Auf den Pfaden durchs Hinterland)“ besuchte extra den Stein (die Lava) und schrieb folgenden Haiku.

Das Feld durchquerend,
wende das Pferd dorthin zu,
wo der Kuckuck ruft!

24-07

妖狐の祟りが全く根のない話でないことは、その石に近づいた蜂・蝶の類が重なりあって死んでいる現象をもっても証せられる。これは有毒ガスのためで、今でも殺生石のまわりには柵をめぐらして立入禁止になっている。

Die Geschichte über den Racheakt des Fuchses ist nicht ganz keinen Grund, weil Bienen und Schmetterlinge, die sich dem Stein nähern, überlagernd tot sind. Es ist wegen des giftigen Gases. Heute ist es noch um den Stein gesperrt.

24-08

那須がそれほど昔から有名になったのも、関東から寂しい奥州路に入る口に当たっていたからであろう。陸羽街道がその原を南北に貫いている。現代の旅行家は街道など歩かず汽車によるが、東北本線の西那須野から黒磯あたりまで、その広漠たる原が続く。山の好きな者にとっては、その果てに並び立った山の姿から眼が離せない。

Der Grund für *Nasu* so lange berühmt war, war es wohl der Eingang vom Gebiet *Kantoh* ins Hinterland. Die Straße Oh-u führte damals durch die Ebene von Süden bis Norden. Heute reist man nicht zu Fuß, sondern mit dem Zug auf der Linie *Toh-hoku* von *Nishinasuno* bis *Kuroiso*. Aber diese Gegend ist eine weitere Ebene. Ich als Bergfex kann kein Auge von den weiter liegenden Bergen lassen.

24-09

まず正面に大きく現れるのが茶臼岳である。これは那須連山の最高峰であるのみでなく、盛んな噴煙をあげているので、一偉観である。現在唯一の活火山である。

Am ersten erscheint groß ist frontal der Gipfel *Chausu-dake*. Er ist nur am höchsten im Gebirge *Nasu*, sondern auch allein heute tätiger Vulkan, der rege Rauchwolken ausstößt.

24-10

那須五岳と称えられるのは、南から、黒尾谷岳、南月山、茶臼岳、朝日岳、三本槍岳を指すが（異説もある）その中枢部の茶臼、朝日、三本槍を、所謂那須岳と見なしていいだろう。茶臼は名の通り臼型のコニーデであり、朝日が峨峨とした岩の盛り上がりであるのは、嘗ての噴火の火口壁の名残りだという。三本槍はその名から察して鋭い岩峰を思わせるが、実はそうではなくなだらかな頂をもっているのは、その北肩が下野・磐城・岩代の三国境になっていて、封建時代に黒羽藩・会津藩・白川藩の武士が所領を確かめるため、五月五日の節句にそれぞれ槍を携えて登山し、山頂で三本の槍を立てた行事から来た名だそうである。この三本槍岳も昔は火山活動をしていたことは、その断崖によっても察しられる。

Was genannt “die fünf Gipfel Nasus“ sind, vom Süden reihend, der *Kuro-otani-dake*, *Nangetsu-san Chausu-dake*, *Asahi-dake* und *Sanbon-yari-dake* (es gibt auch andere Meinung). Können wir darin drei Gipfel: den *Chausu*, *Asahi* und *Sanbonyari* wohl für den *Nasu-dake* halten. Der *Chausu* ist wie Name zeigt, Mörserformige Conide-Typ. Der *Asahi* hat den schroffen Felsen, der aber früherer Kraterwand sei. Der *Sanbonyari* (die drei Lanzen) ist wie Name, als ob Schroff wäre, doch er hat den sanften Gipfel. Es ist so gesagt, in der Seite vom Norden vom Gipfel war die Grenze zwischen drei Länder: *Shimotske*, *Iwaki* und *Iwashiro* in der Feudalzeit. Deshalb hatte jeder Beamter sich jeden Jahr 5. Mai auf dem Gipfel gesammelt und hier seine Lanze aufgestellt, um die Grenze festzustellen.

21-11

那須七湯（湯本、北、弁天、大丸、三斗小屋、高雄、板室。現在はこのほかに、旭、八幡、飯盛、新那須、の四つを加えて十一湯となっている）は、この火山脈のおかげである。那須温泉郷とはいうものの、湯本のような高級ホテルが並ぶのから、三斗小屋のように今でもランプで粗末な宿が二軒きりというものもある。そしてそれらの温泉を根拠として登山のできることが、那須岳の大きな特典であろう。

Sieben Bäder in *Nasu* (*Yumoto*, *Kita*, *Benten*, *Daimaru*, *Santo-goya*, *Takao* und *Itamuro*), und heute sonst vier Bäder (*Asahi*, *Hachiman*, *Iimori*, *Shin-nasu*) gesammelt, sind alle elf Bäder sind dank dem Vulkangebirge. In den *Nasu* Bädern, von die sich reihenden Luxushotels wie *Yumoto*, bis nur zwei ärmliche Unterkunft mit Öllämpchen wie *Santo-goya*. Es muss dank dem *Nasu-dake*, dass wir durch den Stützpunkt aufsteigen können.

12. Aug. 2020

（続く）

事務局註：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めています。なお、深田会員が5年かけてドイツ語版を完成させた経緯が、故深田久弥氏の地元の北陸新聞（2020年10月25日付）、上毛新聞（2020年11月18日付）、朝日新聞（2020年1月17日）に紹介されました。

7. Treffpunkt(トレフプント) 出会いの場

ぐんま日独協会に入会したけれど、どんな人が会員なのかわからない、と思いませんか？ コロナのせいでドイツフェスティバルも延期になり、知り合う機会も減ってしまいました。ならばここ *Treffpunkt* で、おたがいに自己紹介しませんか。まずは広報担当理事3名から始めますが、古参の会員も最近入られた方も、みなさんふるってご参加ください。お寄せいただいた自己紹介文は、まとめてお届けします。寄稿の方法は次ページをご覧ください。



広報を担当しています、宮越リカです。東京で生まれて間もなく、親の転勤のために各地を転々。小学校から高校卒業までの間にドイツとオーストリアを含めて転校を繰り返しました。ウィーンの現地校を卒業したところで根無し草状態に嫌気がさして——今思えば少々もったいない気もしますが——親よりも一足早く帰国して、敢えてドイツとは無縁の学科に進学しました。けれども気がつけば就職先はドイツ系の会社、その後は子育てをしながら実務翻訳を仕事にするなど、ドイツ語圏で過ごした恩恵にあずかっています。一方、群馬とはまったく接点がなかったのですが、前橋に転職した夫を通じて縁ができ、ぐんま

日独協会に入れていただきました。子どもたちが巣立った今は、家庭菜園で食べられるものを育てるのが楽しくてたまりません。いよいよ夏野菜の季節です！

①長井 宏之(高崎市)②元;県内公立高校教員(数学、情報)、大学非常勤講師(数学)③ドイツの科学・技術、ドイツ語の響きが好き。フランス不好④ドイツ旅行歴は数回・3週間程度。ウィーンに数回⑤ドイツの Fritzmeier 社製の競技用スキー板「404 RIESENSLALOM」所有が自慢⑥若い頃の夢⇒★Bayern Alpen でスキー滑走(スキー検定 1 級)★地中海で泳ごう(日本赤十字社の救急法指導員・水泳救助員)★「哲学の道」で逍遥(数理思想・科学系哲学・和算学・比較文化)★Rhein 川・Loreley で指笛を吹こう(指笛演奏家)★Göttingen 大学で数学しよう(大学では数学専攻生・情報工学専攻生)★ドイツでロボット工学を研究(大学院では電気系情報工学専攻院生)★Herzberg am Harz (エス語宣言市)でエスペラント語を(エスペラント検定4級)★München の道院で拳法



(少林寺拳法初段)★チロルの谷の雪渓でヨーデル(Jodel 好き)★Heidelberg の学生酒場[ローテンオクセン]でビール一杯、(旧制学生気分)★Minnesinger, Meistersinger 吟遊詩人の気分で日本詩吟を吟詠(詩吟 正師範9段)★ドイツと通信(無線局長免許)★BMW 大型単車(大型自動二輪免許)⑦大好物⇒不思議・謎、パズル、手品、知恵の輪、詰将棋、推理小説、SF、天文・宇宙、邪馬台国、古本、格闘技理論、記憶術、コーヒー、チョコ、カツ丼、カレー、ラーメン、納豆、懐メロ、寮歌、ネコ、他甚多く ⑧『一芸に秀でるよりも小趣味・小特技・免許・道楽を100個もて』

♪ 沢山書いてみたよ♡ 何か共通な話題があるといいね！



広報担当の岡 博子(前橋在住)です。私がサロンなどに頻繁に顔を出すようになったのは退職後の 4 月からです。それまでは名ばかりの会員でフェスティバルに遊びに行く程度でした。退職したらサロンに参加しドイツ語の勉強もしたいととても楽しみにしておりました。というのも娘がミュンヘンで勉強をし、その後も生活をしているので、ドイツ・オーストリアを中心に毎年 1、2 回訪れて小旅行や音楽会を楽しんでおりました。またドイツやオーストリアの友人などと交流もしていました。旅の計画(国内外問わず)を立てるのが大好きで、行程を考え航空券、電車、ホテルの手配をはじめ、コンサート等のチケットなども娘の協力を得ながら計画し自由気ままな旅をしてきました。このコロナ禍で、昨年計画していた旅はもちろん中止。バイロイトの音楽祭もいったいつ行けるだろう!! 冬のクリスマスマーケットを回りたい計画は中断したまま。コロナが早く終息し、またドイツへ旅行できる日が来てほしいと毎日願っております。日独協会には、そんな娘や孫娘を見ていた父親からこういう活動が群馬にもあると聞いて調べ入会しました。よろしくお願いします。

自己紹介文を寄稿ください!

ご覧のとおり、500字前後という以外は形式は問いません。ドイツとのかかわり、入会のきっかけ、仕事のこと、趣味のことなど、自由にお書きください。なるべく写真をつけて、居住地も入れましょう。お寄せいただいた自己紹介文をまとめて、会員だけが見られる形でみなさんにお届けします。

2021年10月末日までに、メールにて送付していただくか、FAXまたは郵送をお願いします。

送信先: メール: info@jdg-gunma.jp

FAX: 027-288-4297

郵送: 〒371-0105 前橋市富士見町石井2445-219 ぐんま日独協会

8. デザイナー修行奮闘記 - 連載 17

井上晃良 会員

住居さがし

1989年夏。10月から始まる冬学期からの入学許可を大学から貰い、ようやく最初の目標が叶った。しかし、私には心配事が山積していた。理由は、この先も初めての経験となる試練が山ほどあることを承知していたからに他ならない。そのため、先のこと全てが大きな壁に見えていた。

その1つが、これから大学生活を送るための住居を見つけなければならないことであった。大学には学生寮があるのだが、当時結婚を約束していた恋人がいたこともあって、学生寮ではなく、アパートを探しにブレーメンから約1週間の予定で出かけたのである。大学のあるフォルツハイムは、シュツットガルトとカールスルーエの中程に位置するため、まずシュツットガルトへ行き、住まいを探した。シュツットガルトは言わずと知れたダイムラーベンツ本社のある街で、バーデンヴュルテンベルク州の州都である。行き止まりの中央駅舎にはダイムラーベンツのシンボルでもあるスリーポイントドスターが鎮座している。私が最初にこの街で部屋を見つけないかと思ったのは、この街が大都市であり、当時世界的なプロダクトデザインの発信をしていたシュツットガルトデザインセンターの本拠地であったこともある。

ドイツの場合、不動産屋で住居を探すよりも、地元新聞に出ている部屋貸しの広告で見つけ、その大家と交渉するのが一般的である。このため現地で地元の新聞を求め、良さそうな物件を見つけて電話を掛け、家主にアポイントメントを取って物件を見に行くという方法となる。但し、まだ知らない相手にドイツ語で電話を掛けるということ自体が当時の私には難しく、また電話を掛けても既に先約がということばかりで思うようには進まない。シュツットガルトの部屋探しは極めて難しいという結論に至った。

シュツットガルトで丸1日電話で格闘した翌日、次の候補地であるフォルツハイムを目指した。当時、シュツットガルトからフォルツハイムへ向かう路線は、IC/EC 列車以外は1950年代から使われている個室客車やシルバーリングと呼ばれる解放タイプの近郊型客車で組成された列車がほとんどで、いかにも旅をしている風情はあった。私達も Eilzug (快速列車) と呼ばれる列車に揺られて次の目的地へと向かったのである。その後数年で、DB は ICE の登場など飛躍的に車両が新しくなり快適になった。

フォルツハイムでも、私達は朝に新聞を求めて電話を掛け、そして断られるというシュツットガルトと同じ思いをすることになった。インターネットの発達した今であれば、日本からでも部屋探しが不可能ではない。しかし当時の私達にはこの方法しか出来なかったのである。元々、東京で生まれ育った私自身は都会志向であったため、人口12万人程度のフォルツハイムの街は、最初から住みたいとは思っていなかったこともあったのかも知れない。今思えば、ドイツやフォルツハイムのことを知らずに思い上がっていたこともあろう。ここは宝飾産業の生産地として「金の街」と呼ばれ、また西ドイツ最大の森林地帯である黒い森地方の北の玄関口としても有名である。



結局私達は、この街で住居を探すことも早々に諦め更に西へと進み、カールスルーエへと向かったのである。

カールスルーエで住んだアパート

最後に辿り着いたのがカールスルーエである。ここは、大学受験の時、画材の忘れ物を調達するために彷徨い歩いた街である。駅の近くの安ホテルを基地に、ここでも初めは新聞を購入して掛けたのであるが、やはり上手くゆかない。丸1日を徒労で終わらせたが、一方で前回来た時の学習効果で路面電車と地理感覚もあって、右も左も分からない街ではなかった。カールスルーエ城を中心とした計画された明快な都市構造の街並みも気に入って、この街での部屋探しは諦める気にならなかった。もちろん、ここで諦めたら後がないということもあった。そこで翌日は、電話帳を使って不動産業者を探し、そこを当たってみることにした。ホテルで電話帳を借りて市内のめばしい業者を調べ、翌日に備えたのである。ただ、日本の一般的な不動産業者のように、店先に空き部屋案内を貼り出すようなことはなく、事務所で聞くしかない。数件の業者を回って空振りし、失意がこみ上げてきた頃、訪れた商店街の一角のビルの中にある不動産事務所でようやく空き部屋を見つけることが出来た。そこでは一部屋だけであるが、今からでも入居できる物件があるとのこと。但し、同じ建物には、私達が住むのに丁度良い広さの安い部屋は3ヶ月程してから空くので、それまでは100㎡超えの広い部屋しか用意できないので、その間は家賃が高いが我慢して欲しいとのこと。とにかく何とか物件を見つける事が出来たことが嬉しくて、早速物件を見に行った。そこは、駅と中心商店街の間にあり、最寄りのトラムの電停から徒歩3分程度で、住宅地の閑静な場所にあった。偶然にもその時滞在していたホテルとは目と鼻の先ほどの場所でもあった。3ヶ月間は不必要に広い部屋の家賃を支払わなければならなかったが、既に不慣れな2つの街を巡って部屋探しに失敗していた私達には、最後のチャンスにも思えたこともあって、3ヶ月間だけ広い部屋の住人となることに決めた。その部屋は、日本で言えば3部屋と広いキッチン、バス、トイレが付いたもの。居間の広さは20畳ぐらいあっただろうか。ドイツに来て約1年間滞在とは言え、ホームステイ生活での少ない荷物では、高い天井高と相まって私達には不釣り合いなガランとした空間であった。また、家具がないのはもちろんであるが、一般的に、ドイツの住居は、キッチンにはコンロなどの調理器具がない。つまり暖かな食事が作れないので困ってしまった。幸い、その不動産屋がそのの大家も兼ねていたこともあって、そのことを相談すると、洋服筆筒と簡単な調理器具だけはあてがってくれた。

不動産業者とは無事契約が済み、今度は私達の荷物を取りに再びブレーメンのホストファミリーの元へ帰った。ブレーメンでは、長くお世話になった語学学校の事務局で、職員さんや先生方と別れに挨拶を交わし、希望と不安の入り交じった中で次のステップへと進んでいる自分自身を実感していた。お世話になったホストファミリーには結局8ヶ月間もお世話になった。部屋は狭かったが、家族は私を自分の子供のように接してくれ、色々な思い出も残すことが出来た。別れは辛かったが、無事に目的の大学へ入学できたことを誰よりも喜んでくれ、家族全員で私を送り出してくれたのが嬉しかった。

本来なら長距離の移動は鉄道が1番であるのだが、段ボールにまとめた荷物が少なからずあったため、今回はレンタカーでの移動となった。西ドイツなどヨーロッパの場合、レンタカーの国内乗り捨ては遠距離であっても乗り捨て料金が不要である。また、週末などの割引も充実していて安く済ますことも可能であった。もちろん高速道路アウトバーンは通行料金が不要なので、レンタカー代、保険料、そしてガソリン代のみで済むのも有り難かった。

(続く)

(本記事は、イカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 06』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。)

9. Mein Leben in Tübingen — 留学体験記(1)

星崎 伶奈 会員

2019年の10月から2020年3月の半年間、ミュンヘンからバスで3時間ほど離れたチュービンゲンという町の大学に留学していました。本来であれば、2セメスターが終わる8月までの滞在予定でしたが、コロナの影響により緊急帰国となったのです。そのため、ここでは私が初めてのドイツで過ごした1セメスター分の生活についてお伝えしたいと思います。

【町について】

チュービンゲンは、人口の1/3が大学関係者というまさに大学町です。そのため、授業が終わり友達とカフェに行っても教授や他の学生と会うことは当たり前で、少し大げさですが、まるで大学の中に住んでいるようでした。町の中にキャンパスが散らばっているため、教室を移動する学生は、授業に遅れないために走らないといけないこともあるようです。といっても、街の景色はとても美しく、町のシンボルでもあるこの橋を訪れることが日々の癒しになっていました(写真1)。また、チュービンゲンでは、クリスマスマーケットが始まる少し前の12月初めに「chocolART」と呼ばれる Schokoladenmarkt が開かれます(写真2)。広場を中心に世界中の100店以上のチョコレートショップのスタンドが立ち並び、チョコレートの甘い香りに誘われて、このためにわざわざチュービンゲンに来る人も多くいます。

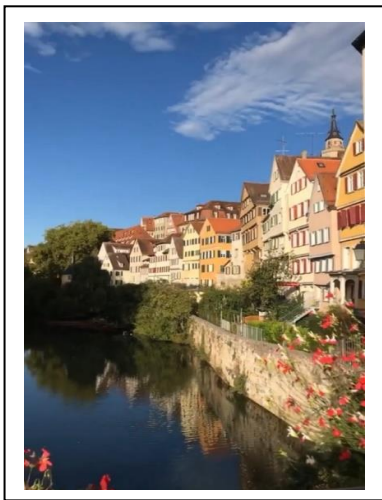


写真1:町のシンボル、ネッカー橋
から見たネッカー川



写真2:Schokoladenmarkt の様子

【大学について】

町全体が大学のようになっているわけですが、学生も多種多様。短期の交換留学だけではなく正規課程にも多くの留学生がいました。その理由の一つとして、専門性の高い教育の他に学費があると考えられます。学費は、正規課程の学生として入学するのであれば基本無料。

私は日本の大学との交換留学制度で留学していたため、これまでと同様の学費を払っていました。一方、タダで高い教育を求める外国籍の学生が多く在籍しており、大学はこれを規制するような動きがあると聞いたことがあります。



写真3:テュービンゲン大学

【授業について】

10月から(他大は8月が多い) Winter Semester が始まり、私は English Business、Global strategy、International institutions、German language course、International marketing の5つの授業を取っていました。

立教大学では、第二言語として中国語を履修。ドイツ語は、留学前に少し独学で学習した程度でしたので、週2回ドイツ語の授業を取っていました。この授業には、韓国や中国、トルコ、フィンランドなど多様な国籍の学生が集まっていました(写真4、5)。授業では活動が多く、クリスマスにはプレゼント交換(Wichteln、ヴィヒテルン)を行ったり、毎回グループワークをしたりと、アクティブにドイツ語を学んでいました。

また、ブロックコースと呼ばれる短期集中型の授業も取っていました。これは、4日間9時から16時くらいまで授業を受け、その後テストを受けて単位が取得できるというもので、内容の理解というよりは集中力との戦いの場でした。幸いなことに、ブロックコースで取った International marketing は、日本の経営学部で学んだ内容も多く含んでいたのが比較的楽しみながら受けることが出来ました。

授業の中で特に印象に残っていることは、主にふたつあります。ひとつ目が、授業を行う教授への感謝の仕方です。日本の大学では、授業終了後、学生はお礼もなければお辞儀等もなく、終わった途端に友達と話したり、すぐさま教室を飛び出したりする学生が多いです。一方、私がドイツで体験したのは、授業の後は毎回机を拳で叩き、拍手の代わりに感謝を伝えるということでした。昔の習慣からくるものかもしれませんが、何も区切りがなく終わる日本の授業よりもメリハリがついて良いのではないかと個人的に感じていました。

ふたつ目は、教授と学生の相互的な授業です。高校時代アメリカに留学していたため、海外のインタラクティブな授業は想像できていました。しかし、当時は高校、今回は大学であったため、その議論の白熱さや真剣さは想像を超えました。経営学部の授業は実例を用いることが多く、カスタマー目線や、その会社の印象から自分の考えを自由に発言する機会が多かったように感じました。また、友達が受けていた哲学の授業に一回出席したことがありますが、その時はやはり学生と教授の間で何度も会話のキャッチボールが繰り返されていて、とても新鮮でした。



写真4:ドイツ語の授業
(Annika 先生と一部の学生)

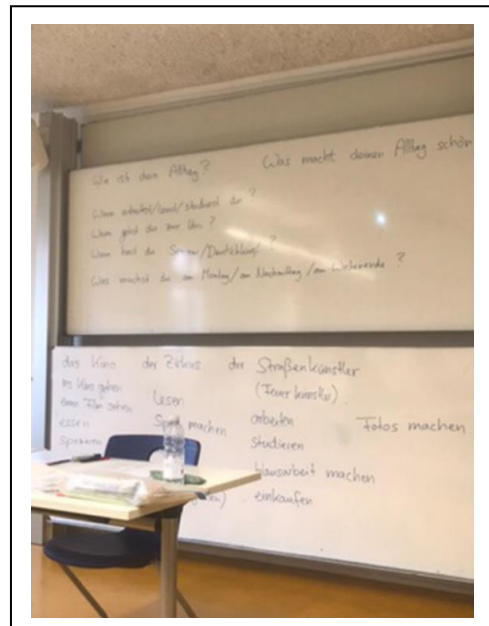


写真5:ドイツ語の授業

【放課後の過ごし方】

授業が終わった後は、友達とカフェへ行くか、課題をおとなしく行うか、街の散策をしていました。また、Semester 1 では英語で行われる授業が少ないため、放課後はクラブ活動に積極的に参加していました。週1回、ベリーダンス、フィットネス、ズンバと、少しでも交流の輪を広げようと参加していました。その他には、大学の日本学科の学生や院生と大体週1回のペースで、お互いの母国語を教え合うタンデム(言語交換)学習を行っていました。加えて留学中は、帰国後の就職活動を見据え、少しずつ自己分析や企業分析を行っていました。11月初めには、アメリカで3日間開催される海外経験者向けの就活イベント「ボストン・キャリア・フォーラム」に参加しました。その一環として、コロナ前からオンラインでの面接等を行っていたため、急な帰国後のオンライン就職活動にも迅速に対応出来たのではないかと、と思っています。日本での生活と比べ、ドイツはゆったりと時間が流れていくことを感じながら、やるべきことを日々行っていました。とても心地が良く、自然に恵まれて、学ぶ環境が整っている素晴らしい町であったと思います。

【寮について】

寮の費用は、毎月€240。私は Fichtenweg と呼ばれる、寮の集合地帯に住んでいました。そのため、友達の家遊びに行くのは比較的楽で、よく互いの寮に遊びに行っていました。私の住んでいた寮は、地下1階～地上3階までの4階建て、1フロアの部屋数は15室ほど。私は1階の部屋に住んでいましたが、半年の間に会ったのは6人ほどで、部屋数の約半分しか住人がいなかったように感じます。

部屋は6畳くらいで、ベッドと机、椅子、収納棚は元から部屋に置いてありました。多くの寮はバスルーム共有でしたが、私の住んでいた寮は幸運なことに、洗面台・トイレ・シャワーのあるバスルームが個々の部屋についていたため、トラブルなく自由に身支度をする事が出来ました。

また、8つのコンロとオーブン、冷蔵庫、大きな机と椅子があるキッチンと、洗濯機、乾燥機がそれぞれ1台ずつ共有となっていて、そこは他の寮生との会話が生まれる場所でもありました。キッチンは、部屋番号順に掃除当番が決まっており、各自当番制でゴミ出し等を行っていました。

次回は、現地でできた友人、その他のことについてお伝えしたいと思います。

(続く)~~~~~

10. ドイツ語ニュースを聞く会に参加して

北爪 史郎 会員

私たちが一般的に思い浮かべる外国語の学習といえば、どのようなものでしょうか。日本では、大半の人々が中学校もしくは小学校の頃から学校や塾などで英語を学んでいます。町中に行けば英会話教室などを見かけ、書店の棚にも英語に関する参考書の数々が充実しているのを目にします。テレビでは、英語に関する番組も数多く放送されています。

一方ドイツ語は、英語に比べると触れる機会が少なく、学ぶ場や実際に使用する場面も限られてきます。

私はこのような中で、ドイツ語ニュースを聞く会に参加することができ、非常に喜ばしく思っています。当会に参加することにより、ドイツ語だけでなく、ドイツや他の国々の政治や文化についてより深く知ることができ、勉強になっています。

ドイツに関するニュースといえば、環境問題やメルケル政権、サッカーのことに関しては、私たち日本人にもなじみ深いと思います。またドイツ以外では、イギリスの EU（欧州連合）からの離脱や昨年行われたアメリカ合衆国の大統領選挙に関するニュースも世界中で注目の的となりました。私はこのような話題を当会で学べたことにより、ささやかながらも世界が広がったように思っています。

ドイツ語に関しては、自分が大学の時に専攻したドイツ文学が出発点でした。アルファベットや単語、文法の基礎の学習から始まり、読解や独文解釈へと移っていきました。けれども現在においても、未知の単語や和訳に苦勞する表現が数多くあります。

私は大学受験のための英語を勉強していた頃、読解や作文の力を身に付けるために、くり返し単語を覚え、文法や構文の問題を解いたりしました。とりわけ長文に関しては、語彙力がないと英文が読めず、内容を把握するのが難しいことに気づきました。そのため最初の段階では、語彙力が必要であることを強く実感しました。そしていつの日か、完璧ではないけれど、自分なりに学んだ成果が表れたように思えました。

同様にドイツ語の学習においても、大学受験の時の経験を踏まえて、最初の段階では文法や構文、単語をくり返し学びました。今ではドイツ語の文章の中に、見覚えのある単語や表現があるのを目にします。当会に参加する際にも、特に単語に関しては、一度意味を忘れていたとしても思い出すことがあります。また文法や構文の訳し方を学び直すための良い機会にもなっています。もちろん今でも自分にとっては、未知の単語や訳すのに困難な表現がいくつかあります。

外国語の学びは、一人では限界があることを今でも実感しています。そのためみなさんと共に当会を通じてドイツ語を学ぶことができ、非常に感謝しています。

“Vier Augen sehen mehr als zwei.”

(直訳「四つの目は、二つの目より多くを見る」→「三人寄れば文殊の知恵」)

またドイツ語の学習は、私には青春の回帰でもあります。

現在は、コロナウイルスのため、みなさんと直接会うことができない中で、Zoom での学びとなっています。遠隔の方とつながってやり取りをしやすくなるなどの利点が Zoom にはあるようですが、いつの日かみなさんと同じテーブルを取り囲みながら、再び学べる日が来ることを願っています。

11. ドイツ人のお名前

ドイツ人の名前も日本人の名前も、来歴はいろいろです。
祖先の職業や住んだ場所などに思いを巡らせるのも楽しいものですね。
ドイツ人の名前を題材にした川柳の投稿をいただきました。

2.回に分けてご紹介します。

作 近藤基晴

荒畑を一人で耕す耕作者 (Ackermann)

アルトマン若いけれども年寄りだ (Alt-Mann)

アルプスを見渡す麓の山小屋で (Alpenheim)

わが家庭 小川 (Bach) のほとりの音楽家

群馬ではどいつもこいつもベルツ (Bälz) さん

バウアーさん (Bauer) 大麦小麦作る人

早朝に起きて焼きだすパン屋さん (Bäcker)

石一つ (Einstein) 投げて納得相対性

わが祖先テニスを好む伯爵 (Graf) だ

グリムさん憤怒 (Grimm) 抑えて童話にし

国守る陸軍大尉ハウプトマン (Hauptmann)

ユンク (Jung) さん年をとっても若い人

ケラーさん隠れる場所は地下室 (Keller) だ



ドイツ人の名字 職業に由来するもの 人数の多い名字上位 10

ドイツでは、名字は中世後期に使用するようになり、それぞれの地域の方言を反映しています。また、職業に由来するものが多く、女性では名字の最後に -in を付す習慣がありました。多い順にご紹介します。(N)

1	Müller	ミュラー	粉屋
2	Schmidt Schmitt	シュミット	Schmied (鍛冶屋) に由来
3	Schneider	シュナイダー	仕立屋
4	Fischer Fisher	フィッシャー	漁師
5	Weber	ヴェーバー	織物屋
6	Meyer Meier Mayer	マイヤー	地方荘園の管理人、Meier (小作人)
7	Wagner	ヴァーグナー	Wagenbauer (馬車製造業者) に由来
8	Becker Bäcker	ベッカー	パン屋
9	Schulz	シュルツ	Schultheiße (村長、町長) に由来 税取立人
10	Hoffmann Hofmann	ホフマン	農場所有者
その他			
	Schäfer	シェーファー	羊飼い
	Koch	コッホ	料理人
	Bauer	バウアー	農民
	Richter	リヒター	裁判官
	Krüger	クリューガー	宿屋、ホスト
	Zimmermann	ツインマーマン	大工
	Schlosser	シュロッサー	鍵屋
	Schumacher	シューマッハー	靴屋
	Ackermann	アッカーマン	荒地耕作者
	Graf	グラーフ	伯爵
	Hauptmann	ハウプトマン	陸軍大尉
	Schröder	シュレーダー	仕立屋
	Schulze	シュルツェ	馬屋係、巡査
	Köhler	ケーラー	炭焼き
	Schubert	シューベルト	製靴業
	Baumann	バウマン	土建屋
	Schuster	シュースター	製靴業
	Schreiber	シュライバー	作家

出典：<http://forebears.co.uk/germany#surnames>.....

12. ぶらり ぐんま ドイツ語で!

ぐんまのあれこれを簡単なドイツ語で紹介してみよう、という新企画です。習い始めて間もない方には適度の刺激、昔やったなあという方には忘れかけた文法の復習になり、そして生粋の上州っ子にも「ほお、そうだったんだ!」という新発見があるかもしれません。まずは交通の起点、高崎駅に来てみました。

Mehr als 40.000 Menschen steigen täglich am Bahnhof Takasaki ein. Er wird von zwei Shinkansen-Linien, sechs herkömmlichen Bahnlinien und einer privaten Bahnlinie bedient. Für einen Besuch in der Tomioka-Seidenmühle, einer UNESCO-Weltkulturerbestätte, fährt man von Bahnsteig 0 ab. Takasaki ist ein wichtiger Bahnknoten, der die Pazifikseite mit der Japansee-Seite verbindet. Mit dem Shinkansen ist Takasaki von Tokyo aus in etwa 50 Minuten zu erreichen. Am Wochenende kann man auch mit einer Dampflok von Takasaki nach Minakami oder Yokokawa fahren.

In der Nähe des Bahnhofs befinden sich viele Kultur- und Sportanlagen, und hier finden verschiedene kulturelle Veranstaltungen sowie nationale und internationale Sportmeisterschaften statt, die auch landesweit im Fernsehen übertragen werden. Die Fotos zeigen die Ansicht des Takasaki Bahnhofs vor dem Westausgang, bei Tag und bei Nacht.

高崎駅は毎日4万人以上が乗車します。2路線の新幹線、6路線の在来線、1路線の私鉄線の駅です。世界遺産の富岡製糸場に行くためのホームは0番線です。高崎駅は太平洋側と日本海側とをつなぐ重要な路線の要衝です。新幹線では高崎から東京まで約50分で到着できます。週末には、高崎から水上や横川まで蒸気機関車が走ります。

高崎駅の近くには文化・スポーツ施設が多くあり、様々な文化イベントや世界選手権大会、全日本大会が開催され、全国にテレビ中継もあります。写真は、駅の西口の昼と夜の景色です。



13. 編集後記

今号のハイマート、いかがでしたでしょうか。不慣れな新メンバー3人がオンラインで初顔合わせをしたのが4月のはじめ。どうなることかと思いましたが、連載を寄せてくださるみなさま、寄稿のお願いに快く応じてくださるみなさまのおかげで形にすることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。大筋の内容は決まっていたのですが、3人知恵を出し合って、少しばかり新しい味つけにも挑戦してみました。ハイマートが会員同士の出会いの場になれば幸いです。(M)

14. お知らせあれこれ

Informationen

応募作品募集中!

① ドイツ大使館主催 絵画コンテスト「わたしのドイツ」

テーマ: 「となりのドイツ」
 締め切り: 2021 年 9 月 10 日(金)
 資格: 日本に住んでいる小学生・中学生のみなさん
 (グループ作品も OK)

応募方法その他は下記ホームページを参照ください。

<https://japan.diplo.de/ja-ja/vertretungen/botschaft/-/2352936>



② 日独協会主催 ドイツ大使館後援 「日独 Manga コンクール」

テーマ: 「遠くて近い日独関係」
 締め切り: 2021 年 8 月 31 日(火)
 資格: 成人部門: 20 歳以上の個人またはグループ
 ハイティーン部門: 13 歳~19 歳の個人またはグループ
 ローティーン部門: 12 歳以下の個人またはグループ

応募方法その他は下記ホームページを参照ください。

http://www.jdg.or.jp/event/Mangawettbewerb2021_j.html

なお、2019年の日独 Manga コンクールでは、当会会員の bear さんが特別賞を獲得されました。



貸し出します!

「アンペルマン 東ドイツ生まれの人気キャラクター」 訳・著 高橋 徹 (2015年)



ベルリンの壁ができた1961年に東ドイツで生まれた信号機(アンペル)のキャラクター、アンペルマン。東西統一により旧東独の製品が西側の製品にどんどん置き換えられ、アンペルマンのついた信号機も撤去されていく…。そんなアンペルマンが復活を果たしてベルリンの信号機の公式キャラクターとなり、様々な製品を飾るようになるまでの物語が、東西ドイツ分断の歴史と今日のベルリンの案内を交えながら紹介されています。写真やイラスト満載。

ドイツ大使館からぐんま日独協会に3冊寄贈されました。

興味のある方、事務局までご連絡いただければ貸し出いたします (info@jdg-gunma.jp, 027-288-4297)。

**** ホームページ ****

jdgunma

<https://www.jdg-gunma.jp/>

ぐんま日独協会のホームページでは、ドイツサロン、ドイツ語ニュースを聞く会など
今後のスケジュールを確認したり、ドイツフェスティバルのパネル展示をはじめ
ドイツサロンなど会の活動の記録、ハイマートのバックナンバーなどを閲覧できます。
どうぞご活用ください。

**** Facebook ****

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

ぐんま日独協会の Facebook では、
協会の話題に加えてドイツ大使館や日独ユースネットワークなどが
発信するコンテンツも掲載されています。

**** Instagram ****

<https://www.instagram.com/JDGGunma/?ref=badge>

ぐんま日独協会の Instagram ご存じですか？
協会の活動やドイツに関する情報など、新たな情報発信ツールとして、
アップしていきたいと思います。



フォローしてください！

**** Twitter ****

https://twitter.com/jdg_gunma

ぐんま日独協会は Twitter でも発信していきます。